

# 【静岡福祉文化を考える会】2025 年度事業計画(案)

## 活動テーマ：「静岡発 福祉文化の創造 30 年の軌跡を検証する」

異業種交流、世代を超えた交流の場、共助社会の再構築、専門性と市民性の融合等、様々な角度から「静岡発（地方発）福祉文化の創造」を県域に発信してきた本会は、今年度 30 年の節目の福祉文化実践活動を迎える。

果たして、「福祉文化の推進」は、どこまで発信できたのか、本会の発足の原点に立ち、これまでをしっかりと検証する大きな課題がある。

静岡県に「福祉文化」の動きが伝わってきたのは、1989 年 7 月「日本福祉文化学会」結成から 3 年後であった。専門性や公助による社会福祉課題解決の時代を迎える時期に、これまで培われてきた「共助社会」の維持を「福祉文化」と置き換えていく地域社会が求められると、にわかに県内の有志が議論をし始めていた時期でもあった。その 4 年後に、「日本福祉文化学会」より、静岡県内で「第 11 回福祉文化現場セミナー」開催の要請を受けた。これまでの議論からの思いを形にしようと、40 名の有志が中心になって、要請を実現する動きが始まった。阪神淡路大震災発生から 1 年後（平成 8 年・1996 年 3 月）、「静岡発・みんなで語ろう福祉文化を 21 世紀の礎に」を課題に「人間らしい豊かさをめざして、いま文化としての福祉を語る」を研修テーマに掲げ、全国各地から 400 名余の参加者と熱く語り合った、その思いを形にしようと、当時高校生や青年層中心に、「災害と福祉文化」を追求する「静岡発（地方発）福祉文化の創造」に取り組む「市民活動団体」として、平成 8 年（1996 年）9 月に「静岡福祉文化を考える会」を結成した。

この 29 年間、「静岡発（地方発）福祉文化の創造」を理念として、「専門性と市民性の融合」、「公開型地域総合型学習による理論と実践」、「課題解決に向けた、福祉文化のプロセス重視」の「3 つの活動基調」を掲げて、活動に取り組んできた。

さらに、「第 1 の柱立て：啓発学習事業→静岡発（地方発）福祉文化の創造をめざして、地域総合型啓発学習として、県内各地の地域活動に学ぶ」、「第 2 の柱立て：調査研究事業→県民の協力により、一貫して、その時代の地域社会問題をテーマに調査研究活動に取り組み、その結果をその都度県民とともに、地域総合型学習により課題解決に向けた議論を深める」、「第 3 の柱立て：実践地区活動事業→広く県内各地の実践事例を共有し合い、地域診断のもとに、確かな地域性を把握し、さまざまな実践活動を展開し、協働による福祉問題解決のプロセスの重要性を確認する」の「3 つの柱立て」をもとに、各年度の地域課題をテーマに活動を展開してきた。改めて、29 年間を振り返ると、

### ■『草創期』（1996 年度～2001 年度の 6 年間）

＊結成直後の活動は、模索しながらも、若者層中心の活動として、地域社会の課題をもとに「結婚」、「共働き」、「地域」、「家族」、「父親」、「ボランティア活動」等のキーワードを、世代を超えて、県内各地を会場に合宿セミナー中心に議論し合った。

### ■『協働期』（2002 年度～2007 年度の 6 年間）

＊結成 6 年後、日本福祉文化学会から、静岡県において「学会全国大会」の開催を強く要請され、県内外有志 42 名による実行委員会を立ち上げた。平成 13 年 11 月 29 日「学会全国大会静岡大会プレ大会」（裾野市・参加者約 300 名）を開催し、「福祉文化」の意義を学び合った。そして、翌年の平成 14 年 11 月 30 日・12 月 1 日に、「富士山麓 いのちと暮らしによりそう福祉文化の創造と推進」をテーマに「第 13 回日本福祉文化学会全国大会静岡大会」（裾野市会場、全国から延べ約 650 名が参集）を開催することが出来た。

この全国大会開催に、共催：裾野市・裾野市教育委員会・裾野市社会福祉協議会・社会福祉法人富岳会、そして、後援：静岡県・静岡県教育委員会・静岡県社会福祉協議会をはじめ 32 の関係団体の支援をいただくことが出来た。

この期は、更に、県内外の関係団体等との関係づくりに努めながら、「働く人の暮らし」、「生活圏域の検証」、「子どもを育む地域環境」、「団塊の世代」等を議論し合った。

## ■『実践融合期』（2008 年度～2014 年度の 7 年間）

＊静岡県より、「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」を受託し、高齢者等が地域で孤立・孤独することなく、安心して暮らし合えるための事業として「調査研究活動」「実践検証地区活動」「啓発学習活動」に取り組んだ。（単年度受託事業として 7 年間取り組む）

特に、実践検証地区として、県内市町のうち、沼津市（4 回）・富士市（旧富士川町）・掛川市（2 回）・袋井市（2 回）・小山町・伊豆の国市・焼津市・藤枝市・磐田市・富士宮市（3 回）・西伊豆町（3 回）・川根本町・熱海市（2 回）・牧之原市（2 回）・長泉町・島田市・御前崎市・森町の 18 市町（県内全市町の 51％）の協力をいただいた。沼津市、西伊豆町、焼津市では「ご近所福祉のつどい」を地域住民に呼びかけて開催した。

※（ ）内数字は指定年度回数

## ■『共創社会実現期』（2015 年度～2019 年度の 5 年間）

＊静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」7 年間の取り組みを通じて、多くの若者が、地域で暮らす高齢者から学んだ福祉課題を出し合い、「共創社会実現研究会」を立ち上げ、2015 年度に、県民の尊い赤い羽根共同募金助成事業の決定をいただき「若者発ご近所福祉かるた」（100 セット）の完成につなげた。住民主体の「生活圏域の地域づくり」、「ご近所の助け合い」、「地域ぐるみの居場所」、「子どもを育む地域」、「地域ぐるみの支え合いの仕組み」等を、地域福祉教育教材として、「見える化」「わかる化」し、共創社会実現に向けて、有効活用する働きかけをした。

## ■『ご近所福祉検証期』（2020 年度～2024 年度）

＊これまでのプロセスから、2020 年度は「つながるご近所の再構築—ご近所福祉の復活—」を活動テーマに掲げ、その翌年度（2021 年度）は、「地域を家庭化する支え合いの検証」を掲げ、再度、赤い羽根共同募金助成事業の決定をいただき「若者発ご近所福祉かるた」の増刷（100 セット）と「かるた利用の手引き」（200 部）の発行で、更にご近所福祉を働きかけた。そして、2022 年度「ホッとする豊かな地域づくりを拓く—共生社会実現を探る—」、2023 年度「世代や領域を超えた、つながる“ご近所福祉”」、2024 年度「見える・わかる“ご近所福祉”こそ福祉文化」をもとに、2024 年度には、三度、赤い羽根共同募金助成事業により、「若者発ご近所福祉かるた」の増刷（100 セット 10 年間で 300 セット作成）と「かるた活用事例集」（200 部）を作成し、ご近所福祉の推進に取り組んできた。

今年度（2025 年度）は、活動テーマ：「静岡発 福祉文化の創造 30 年の軌跡を検証する」を掲げ、この 30 年間の福祉文化実践活動を「3 つの活動基調」と「3 つの活動の柱立て」をもとに、果たして、「福祉文化」を静岡県内に発信できたかを検証する。

また、2013 年度（平成 25 年度）から、地域福祉教育教材の開発に取り組み、2015 年度（平成 27 年度）、尊い赤い羽根共同募金助成事業により「若者発 ご近所福祉かるた」（100 セット）が誕生し、更に、2021 年度（令和 3 年度）「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷（100 セット）とともに、「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き」（200 部）の作成につなぎ、2024 年度（令和 6 年度）三度、赤い羽根助成事業により「若者発 ご近所福祉かるた」の増刷（100 セット この 10 年間で総計 300 セット）と「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」（200 部）の作成につなげることが出来た。このプロセスを基に、2024 年度に引き続き、「ご近所福祉検証期」として、「ご近所の支えあい」を「見える化」「わかる化」「見せる化」する活動を、「若者発 ご近所福祉かるた」の有効活用を、協働関係の「焼津福祉文化共創研究会」とともに、県内国領域に“ご近所福祉”こそ福祉文化」を発信検証する。

## 1. 2025 年度全体会（全体会&第 1 回公開型研修会）の開催

本会結成当時は、年度初めに「総会（会員全体会）」を開催してきたが、本会の活動趣旨から、このようなプログラムも、公開型研修会に広げていくことが望ましいとの提案に基づき、その後の取り組みは、「公開型研修会&会員全体会」として開催している。

- 日時:2025 年 05 月 24 日（土）13:30～15:30
- 会場:静岡市清水区追分 3-5-17「寄ってっ亭」
- 研修テーマ;「私にとって、ホッとするご近所を語る」
  - ① 基調報告:「これまでの 29 年間の調査研究活動から、福祉文化を検証する」
  - ② ワークショップ:「私のご近所を創る提言ーこれからのご近所づくりを大いに語ろうー」

## 2. 委員会の開催

- \* 実務型委員会構成を基に、[代表],[副代表・事務局長],[会計],[監事],[委員]が一丸となって、活動の進捗状況管理と検証に努める。
- \* 原則、「公開型研修会」開催の前段に開催する。
- \* 広く会員や一般社会人にも参加を呼びかけ、「公開型学習会」として位置付ける。
- \* 必要に応じ、臨時の委員会を開催。
- \* 2025 年度の委員会開催は、以下の通りとする。
  - 第 1（225）回: 2025 年 05 月 24 日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
  - 第 2（226）回: 2025 年 11 月 29 日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」
  - 第 3（227）回: 2026 年 03 月 07 日（土）10:30～ 静岡市清水区追分「寄ってっ亭」

## 3. 研修活動

### (1) 公開型研修会の開催

会員相互の情報交換の場及び日常的な実践活動につなげるとともに、年間活動テーマに基づき、広く、市民に公開型研修会として参加を呼びかける。

#### ■ 第 1 回

- 日時:2025 年 05 月 24 日（土）13:30～15:30
- 会場:静岡市清水区追分 3-5-17「寄ってっ亭」
- 研修テーマ;「私にとって、ホッとするご近所を語る」
  - ① 基調報告:「これまでの 29 年間の調査研究活動から、福祉文化を検証する」
  - ② ワークショップ:「私のご近所を創る提言ーこれからのご近所づくりを大いに語ろうー」

#### ■ 第 2 回

- 日時:2026 年 03 月 07 日（土）13:30～15:30
- 会場:静岡市清水区追分 3-5-17「寄ってっ亭」
- 研修テーマ;「静岡発 福祉文化の創造 30 年の軌跡」
  - ① 基調報告「静岡発 福祉文化の創造 30 年の軌跡」
  - ② 円卓トーク「地域活動のプロセスを探る」

### (2) 「第 24 回静岡県福祉文化研究セミナー」の開催

- 日時:2025 年 11 月 29 日（土）13:30～15:30
- 会場:静岡市清水区追分 3-5-17「寄ってっ亭」
- 研修テーマ;「今、あなたの地域は何色ですか・・・」
  - ① 基調報告「融合と協働を探る」
  - ② 円卓トーク「私の地域を何色に変えられるか」

#### 4. 調査研究活動      テーマ：『この30年間の福祉文化研究調査を検証する』

[ねらい]

「静岡福祉文化を考える会」は、結成以来29年間「静岡発 福祉文化の創造」を目指した実践活動の大きな柱立ての一つに、その時代の地域社会を取り巻く様々な福祉課題を「調査テーマ」にした「調査研究活動」に取り組んできた。そして、調査分析結果を、県内各方面での研修会や本会の公開型研修会などで公表し、世代を超えた「地域総合型学習」を通じて問題提起をし、県民一人ひとりの意識改革に努めてきた。

これまでの調査研究活動を振り返ると、

- 1997年度      1. 「共働きに関する調査」
- 1998年度      2. 「私たちにとって、地域とは何かーその1ー意識と実態調査」
- 1999年度      3. 「私たちにとって、家族とは何か調査」
- 2000年度      4. 「父親に関する調査」
- 2001年度      5. 「ボランティア活動実践者意識調査」
- 2002年度      6. 「大人を対象とした生きがいと就労に関する意識調査」
- 2003年度      7. 「青少年の生きがいに関する調査」
- 2004年度      8. 「地域とは何かーその2ー意識と実態調査」
- 2005年度      9. 「子どもと社会環境に関する調査」(継続調査)
- 2006年度      10. 「子どもと社会環境に関する調査」(総括)
- 2007年度      11. 「地域活動と団塊の世代の役割に関する意識調査」
- 2008年度      12. 「長寿者の生きがい、その意識と実態に関する調査」(静岡県共同募金会助成事業)
- 13. 「日常生活と福祉情報に関する意識調査」(静岡県委託事業)
- 2009年度      14. 「長寿社会に関する県民意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2010年度      15. 「いまこそ地域社会に福祉文化を拓く 生活圏域における支え合い  
                    とは何か本音に迫る調査」(静岡県委託事業)
- 2011年度      16. 「地域と私の居場所その意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2012年度      17. 「家族ってなにその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2013年度      18. 「長寿者とつながるホッとすること近所づくりその意識と実態調査」  
                    (静岡県委託事業)
- 2014年度      19. 「豊かに暮らせる地域づくりその意識と実態調査」(静岡県委託事業)
- 2015年度      20. 「若者の地域参加その意識と実態調査」
- 2016年度      21. 「ご近所福祉その意識と実態調査」
- 2017年度      22. 「居場所ってなにその意識と実態調査」
- 2018年度      23. 「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」(単純集計)
- 2019年度      「子どもを育む地域づくりその意識と実態調査」  
                    (静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 24. 「256名の子どもたちに聞きました。ホッとすること地域ですか?」  
                    (静岡県社協ふれあい基金助成事業・考察提言)
- 2020年度      25. 「ご近所福祉その意識と実態調査」
- 2021年度      26. 「福祉ってなに? 256名の子どもたちに聞きました。ホッとすること地域  
                    ですか」 (さわやか福祉財団地域ささえあい基金助成事業及びあしたの日本  
                    を創る協会助成事業)
- 2022年度      27. 「ホッとすること、安心した地域づくりその意識と実態調査」
- 2023年度      28. 「私にとって “ご近所” とは 中学生の意識と実態調査」
- 2024年度      (静岡県社協ふれあい基金助成事業)
- 29. 「“若者発 ご近所福祉かるた” 活用状況調査」  
                    (静岡県共同募金会広域団体助成事業)

と、「29のテーマ」の調査研究活動に取り組んできた。

通算 30 回目となる今年度(2025 年度)の活動テーマ「静岡発 福祉文化の創造 30 年の軌跡を検証する」に基づき、活動年度の社会状況をもとに、調査テーマを設定し、調査対象、回答範囲、調査項目等設定して取り組んできた 29 年間の内容を全般的に考察し、「本会 30 年誌」に掲載する。

## 5. 「静岡福祉文化を考える会 30 年誌」の発行

本会の誕生の原点については、これまで各節目の年度に記念誌として、「静岡発（地方発） 福祉文化の創造」を総論的視点で各種記録をもとに実績としてまとめてきた。

- 10 周年記念誌 タイトル：静岡発 福祉文化の実践と推進 結成 10 年を振り返って
- 20 周年記念誌 タイトル： 静岡発 福祉文化の創造 20 年 これまでとこれから
- 25 周年記念誌 「25 周年記念誌」は、特に、「記念誌」としての発行はなく、令和 2 年度(2020 年度)調査研究事業「つながるご近所の再構築 決め手は一体何か ご近所福祉その意識と実態検証報告書」の中で、本会活動の主要活動である「調査研究活動」と関連付けて、「25 年の歩みと調査研究活動の意義」を章立てとし、その中で、「25 年の歩み(年表)」を掲載した。

改めて、「静岡発 福祉文化の創造」30 年を検証する「30 年誌」の企画目的に沿って、これまでの準備期間を含めた過程をもとに検証する。

- (1) 25 周年以降これまで、単発的に「30 周年誌」として編集検討作業に取り組んできた。

これまでの検討経過をもとに、改めて、令和 5・6 年度 2 年間における取組の経過を引き継ぎ令和 7 年度の本会活動の主軸に、「記念誌」ではなく「30 年を検証する記録誌」として位置付ける。

- |              |   |
|--------------|---|
| *令和 5 年 6 月  | 企画書作成 印刷業者検討                                    |
| 7 月          | 関連資料の収集作業開始とともにページの組み立て協議                       |
| *令和 5 年 8 月  | タイトル検討 ページの組み立て確認                               |
| *令和 6 年 4 月  | 作業の進捗状況確認 ページの組み立て・編集作業実施                       |
| *令和 7 年 1 月  | 印刷業者検討（ネット印刷検討）<br>配布計画検討(現会員と実質的協力実践者・関係機関・団体) |
| *令和 7 年 4 月  | 正式な企画書に基づき、編集作業継続                               |
| *令和 7 年 8 月  | 編集作業仕上げ   |
| *令和 7 年 8 月  | 印刷業者に見積もり依頼                                     |
| *令和 7 年 9 月  | (愛恵福祉支援財団へ助成申請手続き)                              |
| *令和 7 年 11 月 | (愛恵福祉支援財団助成可否発表)                                |
| *令和 7 年 12 月 | 「30 年誌」印刷発注                                     |
| *令和 8 年 1 月  | 「30 年誌」納品                                       |
| *令和 8 年 1 月  | (愛恵福祉支援財団へ報告)                                   |
| *令和 8 年 3 月  | 「公開型研修会」で公表 その後「配布計画」に基づき配布                     |
| *令和 8 年 3 月  | 結成 30 年を総括                                      |

●備考：愛恵福祉支援財団助成不採用の場合は、寄付行為等細部検討

### (2) 編集内容

- ①タイトル：静岡発 福祉文化の創造軌跡 30 年 草創期からご近所福祉検証期を辿る

#### ②目次

○はじめに 本会の原点「静岡発 福祉文化の創造」30 年を視る

#### 第 I 章 「静岡発 福祉文化の創造」の原点を辿る

##### 1. 「福祉文化」が語られる社会の動きの中で

「第 11 回日本福祉文化学会現場セミナー」開催が本会結成につながる

2. 結成当時の「会員対象アンケート」を繙く
3. 本会結成時のフットワークを活かし  
「第18回日本福祉文化学会現場セミナー」開催実現
- 第2章 県内各地で学んだ「現場セミナー」から福祉文化を発信
  1. 「結婚」「共働き」「地域」「父親」「障害児者理解」論議
  2. 「大人と青年」「再び地域」「ボランティア」論議
- 第3章 協働で取り組んだ「第13回日本福祉文化学会全国大会 IN 静岡」
  1. 福祉文化は地域にあり、「地域福祉と福祉文化」をもとに
  2. 「協働」による福祉文化実践の場
  3. 静岡県福祉文化研究セミナーの誕生
- 第4章 静岡県委託事業「一人でも安心して暮らせる地域づくり事業」7年間
  1. 全国的に大きな社会課題となっていた「高齢者の孤立・孤独」を防ぐには
  2. 静岡県からの「委託事業」を福祉文化実践をもとに展開
  3. 「調査研究事業」「実践地区検証事業」「啓発事業」の3つの柱立による検証
  4. 「若者発居場所あり方研究会」立ち上げ
- 第5章 高齢者の学びから浮き彫りになった「ご近所福祉」
  1. 若者が学ぶ「高齢者宅訪問型研修プログラム」の意義
  2. 高齢者に学んだ若者が捉えた「ご近所福祉」
- 第6章 「ご近所福祉こそ福祉文化」を切り拓く
  1. 「若者発 ご近所福祉かるた」誕生から10年のプロセス
  2. “見える化”“わかる化”の地域福祉教育教材として「福祉文化」を発信
- 第7章 「OUR LIFE」から「静岡発 福祉文化の創造」を視る
- 第8章 30年間の「調査研究活動」で福祉文化を発信
- 資料編
  1. 静岡福祉文化を考える会30年間の歩み
  2. 令和7年度静岡福祉文化を考える会活動計画
  3. これからの福祉を考えるネットサイト

### (3) 仕様

- \*A4版 200P 本文カラーまたはスミ 150部または200部  
表紙指定紙質(レザック 66 121k) 本文指定紙質使用 背文字入 裏表紙(奥付)
- \*発行 静岡福祉文化を考える会 〒424-0841 静岡市清水区追分 3-5-17  
NPO法人泉の会内 静岡福祉文化を考える会事務局TEL054-367-2878  
FAX054-367-2884

\*発行日 令和7年12月30日メド

\*印刷所 『(ネット印刷) 』

|         |                      |              |
|---------|----------------------|--------------|
| (4)配布計画 | ①会員                  | 20部          |
|         | ②市町社協                | 35部          |
|         | ③県                   | 5部           |
|         | ④事業協力団体・個人者(研究会会員含む) | 50部(50部)     |
|         | ⑤マスコミ                | 10部          |
|         | ⑥予備                  | 30部          |
|         |                      | 計150部または200部 |

### (5)予算立て

- \*ネット印刷検討 愛恵福祉支援財団助成事業申請(9月~10月 11月決定)  
助成事業採否の状況により、関係法面への協力呼びかけを実施する。

## 6.「若者発 ご近所福祉かるた」の活用状況の把握

2013年度(平成25年度)から、地域福祉教育教材の開発として取り組み、2015年度(平成27年度)「若者発 ご近所福祉かるた」(100セット)誕生につなげ、2021年度(令和3年度)「若者発 ご近所福祉かるた」増刷(100セット)とともに、「若者発 ご近所福祉かるた利用の手引き」の作成につなげた。2024年度(令和6年度)三度、「若者発 ご近所福祉かるた」増刷(100セッ

ト・合計 300 セット作成)と「若者発 ご近所福祉かるた活用事例集」の作成につなげてきたこれまでのプロセスを基に、引き続き、今年度も「ご近所福祉検証期」として、協働関係の「焼津福祉文化共創研究会」とともに、「ご近所の支えあい」を「見える化」「わかる化」「見せる化」する活動に取り組む中で、県内各地で活用している「若者発 ご近所福祉かるた」の活用状況の把握に努め、引き続き「“ご近所福祉”こそ福祉文化」を検証する。

## 7. 広報・啓発活動

- (1)「機関紙発行計画」に基づく『Our Life』の発行
  - \* 年 4 回, A4 版, 4 ページ構成, 上質紙印刷, 200 部発行
  - \* 「地方発福祉文化の創造」論議や実践活動を会員及び関係方面に具体駅に情報発信。
  - \* 各号共通記事:「編集後記」,「ご近所福祉コーナー」,「事務局日誌拝見」
    - 第 157 号 (06/10)『30 年目の福祉文化実践活動の方向性』
    - 第 158 号 (09/10)『若者発 ご近所福祉かるた活用状況から』
    - 第 159 号 (12/20)『第 24 回セミナーを振り返る～福祉文化の学び～』
    - 第 160 号 (03/20)『これからの活動に向けて』
- (2)日本福祉文化学会 HP と本会ブログのリンクによる「地方発 福祉文化の創造」の発信
- (3)「焼津福祉文化共創研究会」ブログとのリンクによる「福祉文化の創造」の発信
- (4)日常的にマスコミへの情報提供 (かるたの活用状況) と 30 年誌の公開
- (5)関係機関・団体への定期的な情報提供

## 8. コミュニティ組織との連携

コミュニティ組織との連携に努め、「かるた」の有効活用とともに、「ご近所福祉」について、広く地域住民の意見を把握に努める。

## 9. 関係機関・団体との協働・連携

- (1)「静岡県共同募金会」に、助成事業後の経過報告
- (2)「焼津福祉文化共創研究会」との連携
  - ・協働による諸活動の展開
  - ・小地域福祉活動の連携
  - ・実践活動による、「近助」の現場を学ぶ
- (3)「静岡県コミュニティづくり推進協議会」への情報提供
- (4)「日本福祉文化学会」及び「学会中部東海ブロック」への情報提供
- (5)「教育と福祉の融合」をもとに、「学校教育」や「社会教育」分野への情報提供の開拓
- (6)「静岡市ボランティア団体連絡協議会」との連絡調整及び情報提供
- (7)「ふじのくに未来財団」への情報提供
- (8)県内外の関連研究会等と「近助」に関する情報提供
- (9)福祉コミュニティ組織における実践的取り組みをしている地域の把握との情報交換
- (10)「若者発 ご近所福祉かるた」配布団体・グループ等との日常的情報交換
- (11)「静岡県社会福祉協議会」への情報提供
- (12)公益財団法人「あしたの日本を創る協会」への情報提供
- (13)公益財団法人「さわやか福祉財団」への情報提供
- (14)公益財団法人「愛恵福祉支援財団」への情報提供 (助成申請団体)
- (15)静岡県内市町社協への情報提供